

< 参考資料 >
2015年9月9日
東京電力株式会社

福島第一原子力発電所3号機
PCV機器ハッチ調査の結果について
(小型カメラによる調査の結果について)

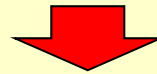


東京電力

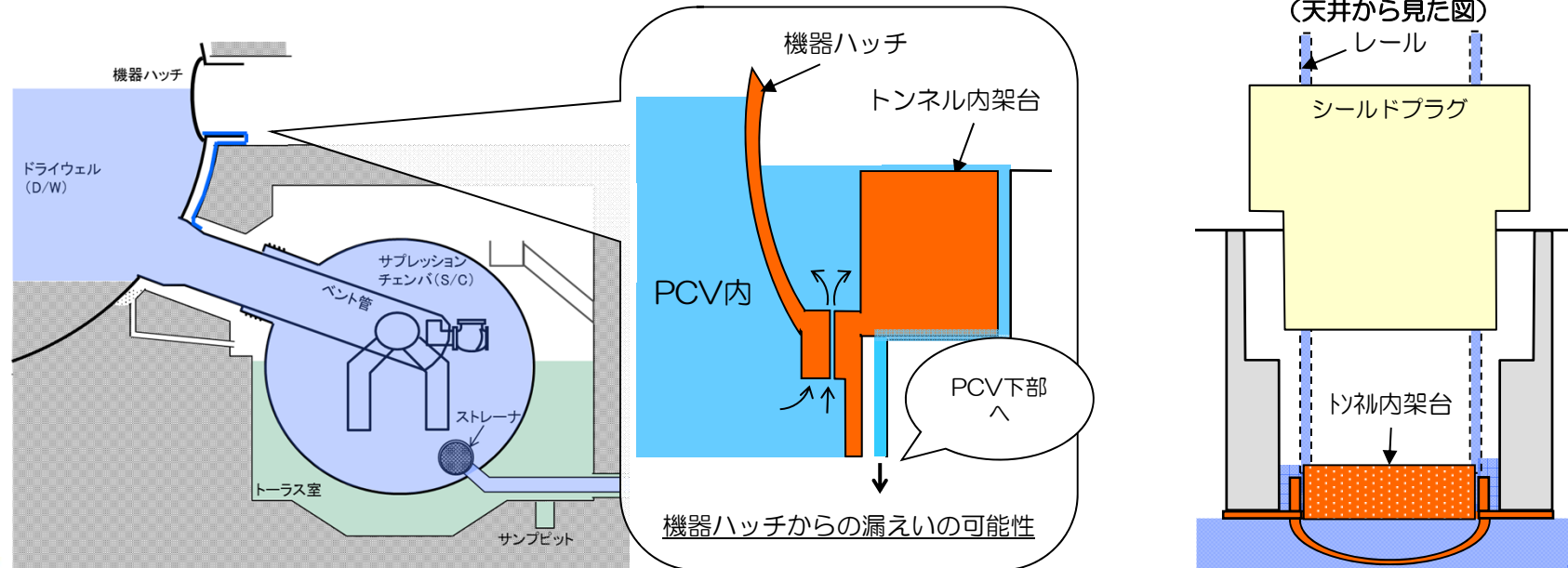
1. 調査目的

■3号機PCV機器ハッチ（R/B1FL北東側）

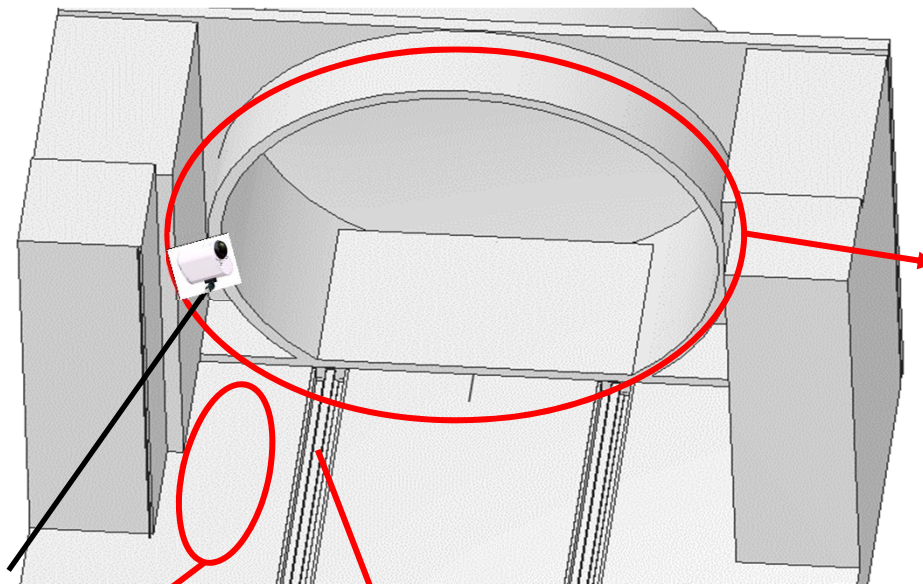
2011年にシールドプラグの移動用レールの溝やその付近に高線量の水溜りを確認
→当該機器ハッチシール部からの漏えいの可能性がある。



■シールドプラグ開口部から小型カメラを挿入して機器ハッチの調査を実施する。



2. 調査結果



床面（塗膜片等が堆積）



レール溝に水溜りあり

機器ハッチ
（塗膜が落
ちている）

定検資材

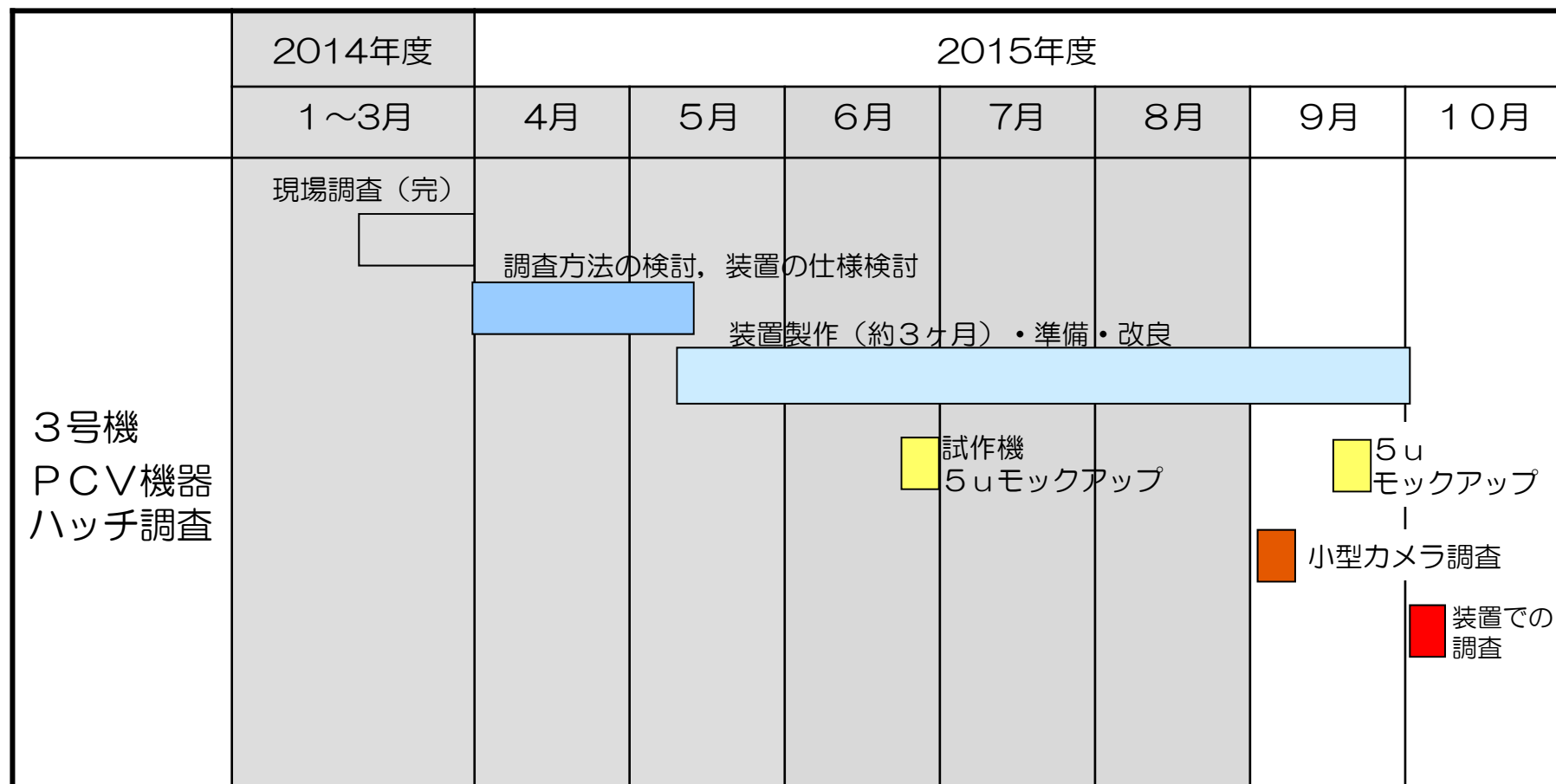


※機器ハッチからの漏えいは確認されず、ハッチ自体の変形等もなし。

3. まとめ

- 2015年9月9日に3号機PCV機器ハッチについてシールドプラグの隙間から小型カメラを挿入して調査を行った結果を報告する。
 - ◆ 今回確認できた範囲内では、PCV機器ハッチからの漏えいは確認されなかった。
 - ◆ 機器ハッチ自体の変形等も確認されなかった。
 - ◆ シールドプラグ内床面は湿っているような状態であった。また、シールドプラグ移動用のレール溝に水溜りが確認された。
 - ◆ シールドプラグ内側上部より雨水または結露水と思われる水の滴下が確認された。
 - ◆ シールドプラグ内の床は塗膜等の堆積が確認された。
 - ◆ 今回の調査は当社社員5名で実施し、計画線量:2.2mSv/人に対し、最大被ばく線量:0.99mSv、総被ばく線量:3.62mSv・人であった。

4. 今後のスケジュール



- 今回の調査で得られたシールドプラグ内部床面や仮置物品の状況等を踏まえ、小型調査装置の投入可否を判断する。

(参考) 小型調査装置

小型カメラ（今回調査）では見えない部分や詳細に確認が必要な場合、小型調査装置（ロボット）を投入して詳細な状況を確認する。

- ◆ 小型調査装置は無線操縦の自走式
- ◆ 小型調査装置を投入する際は同時に小型俯瞰カメラを使用し、装置の状態をモニタ
- ◆ 小型調査装置の操縦は被ばく低減のため、R/B二重扉の外でモニタしながら操縦

